



↑平成15年、全国福井大会の様子

## 思い出を振り返るインタビュー

全日制第12期 須藤 美穂子さん (旧姓秋山)

私の大成高校の思い出は、全国大会にも出場した久遠神楽です。

1年生の時、久遠神楽を始め、全国大会(沖縄開催)や全道大会など、色々な舞台上、緊張しながら踊ったことを思い出します。

大成高校が閉校となるのは、とてもさみしく、残念に思いますが、3年間お世話になりましたと、感謝したいです。



ため中止した以外は毎年行われこれまで23回開催されました。地元漁業者が2隻の船を出したり、教職員と一緒に伴泳するなど生徒の安全は地域住民ががちりサポート。夏の名物としてH T Bテレビ「ニュースロータリー」やS T Vラジオ「奥山コウシン」で全道放映されました。

### ◆伝統芸能「久遠神楽」

久遠神楽は、笛を吹く人たちを中心に周りを太鼓、なぎなた、刀などを持った人が豊年、除災を願って踊る郷土芸能。

明治30年頃、青森県三本木町字切田(現在の十和田市)から練(にしん)漁のために移住してきた久保金治さん、荒谷政次郎さんが遠く故郷をしのび、地元青年団に故郷の踊りを教えたのが起源とされています。2人の青年が、「南部藩」出身であったことから、しばらくの間は「南部神楽」と呼び親しまれてきましたが、大成での継承と保存という観点から昭和52年「久遠神楽」に改められました。

本校では、平成元年より久遠神楽保存会の指導を受けながら、郷土芸能継承活動に取り組

み、厳しい自然環境で生き抜いた100年前の先人たちの開拓者魂を胸に刻み込んできました。その間、文化のインターハイとも呼ばれる全国高校総合文化祭にも5回出場し、文化連盟賞を受賞しています。

新入生の募集停止に伴い、必要な人数がそろわなくなったため、平成17年の町民文化祭で披露したのを最後に活動を停止し、平成18年度から大成中学校が継承活動を引き継いでいます。

### ■探究・真心・実践の校訓のもと1,262人の生徒が巣立つ

安全教育研究・情報教育研究・新聞記事データベース研究など様々な研究実践校の指定を受けるなど、地域・学校が一体となった教育活動が展開されてきました。部活動も盛んで特に陸上競技の円盤投げやハンマー投げでは、全国レベルで活躍する選手も輩出。「探究・真心・実践」の校訓のもと、地域社会との融合を図り、地域全体で育んだ1,262人の生徒達は、在学中や卒業後、日々活躍しています。



頃、遠足の様子



↑昭和36年、修学旅行の様子



↑昭和40年頃、仮装行列の様子



↑昭和42年頃、生徒総会の様子



↑昭和52年頃、卒業式の様子



↑平成5年頃、遠泳大会の様子



↑平成10年頃、久遠神楽の練習風景

■ひとつの歴史が終わる時、そして受け継がれゆくもの

59年前、子供たちのために創られた学校は今、子供たちの事を考えればこそ、その役割を終えようとしています。子供たちが十分満足できる教育環境の確保のための手段として避けては通れない道だったのです。

昨年行われた最後の学校祭「久遠祭」では、地域への恩返しとしてテーマを「感謝」とし、生徒たちは模擬店やフリーマーケットなどで心を込めたおもてなしをしました。地域からも父兄の方々をはじめ、まちづくり会議の皆さん、役場青年クラブ、久遠郵便局、大成教育事務所、地元やOBの有志の惜しみない協力のもと、300人以上が訪れました。まさに「地域から学び地域に貢献する精神」という59年間の活動の原点である姿がここにありました。

地域ぐるみで温かく育んだ大成高校。久遠村・大成村・大成町・せたな町という町の歴史と共に歩んできた59年間。その「地域から学び地域に貢献する精神」はこれから巣立つ子供たちにも受け継がれてゆくことでしょう。

### 思い出を振り返るインタビュー

### 最後の卒業生の皆さん



金子 猛さん

素晴らしい先生方に恵まれ、多くの資格をとれたのはやはり大成高校に通ったお陰だと思っています。閉校になるのは寂しい気がするけど、今まで町民のみなさんの協力でたくさんの方ができた事をとても感謝しています。

佐藤 祐太さん

伝統芸能である久遠神楽をやれたということは、この高校に入学して1番印象深いことでした。誰もが体験できることではないので誇りに思います。そして数々の行事がありましたが、地域の方々の支えがあって出来たことだと思います。今までありがとうございました。

杉村 茉有子さん

これから看護師を目指して大成を離れることとなりますが、お盆やお正月に帰省したとき自分の母校がないのがとても悲しいけれど、今まで行事の度に協力し、支えてくれた地域の人達のために、この先自分にできることがあれば協力したいです。

手塚 拓さん

数ある行事の中で、最後のマラソン大会は特に思い出深いです。先生方や地域の皆さんのお陰で完走することができてとても感謝しています。人との触れ合いを学べたことをいかしてこれからも頑張ります。先生たちもこの大成高校にいたことを忘れないで頑張ってください。



最後の恩師の皆さん

↑昭和25年